

原 著

肉用鶏にみられた羽包細胞腫の8例

阿部増美 前田 学 金子和華子 清宮幸男[†]

(一社)岩手県獣医師会食鳥検査センター (〒020-0851 盛岡市向中野5-28-27)

(2025年2月17日受付・2025年5月14日受理・2025年8月8日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/8/78_e100/_article/-char/ja

要 約

羽包細胞腫に罹患した46～50日齢の肉用鶏8例を病理学的に検索した。背側腰部や大腿外側を含むさまざまな皮膚領域に長径2～16 cmの楕円形、境界明瞭で硬固な淡黄色結節または隆起性塊状物が単在または多発していた。剖面上、病巣は多数の空隙よりなり、内腔に淡黄色の乾酪物質を満たしていた。組織学的に、病巣は真皮に局限する多房性構造物であり、大きさと形状が多彩な嚢胞により構成されていた。各嚢胞は角化亢進並びに基底細胞及び棘細胞の過形成を伴う重層扁平上皮により内張りされ、内腔に羽枝及び小羽枝を含む羽組織の残遺物及び層状に集積したケラチンを満たしていた。基底細胞から羽上皮構造物への分化を伴う多房性嚢胞により特徴づけられる組織像から、検索例は羽包細胞腫と診断された。本例は肉用鶏における羽包細胞腫の初報告である。

——キーワード：肉用鶏，羽包細胞腫，外皮。

----- 日獣会誌 78, e100～e104 (2025)